21　鳴門瀬戸

中川八郎

大正六年（一九一七）
油彩、キャンバス
八九・二×一一四・八

一面

本作は大正五年（一九一六）の立太子礼を祝って、その翌年、全国の文官一同より皇太子（後の昭和天皇）へ献上された七点の油彩画のうちの一点である（作品№6《朝陽富士》もそのうちの一点）。その揮毫作家の一人に選ばれた愛媛県出身の中川八郎（一八七七～一九二二）は、四国の景勝地として名高い瀬戸内海の鳴門の渦潮を描いた。

中川は二十代の数年間を欧米に渡って作品を発表しながら滞在し、その間に明治美術会の後継組織となる太平洋画会を結成して国内における地盤を築いた。三十代には毎年のように瀬戸内海を写生旅行で訪れていたが、不惑の年にこの献上画の制作依頼を受け、自らが熟知し慣れ親しんでいたであろう風景を選んだ。

中川の年譜によれば、同五年十二月の小豆島に写生旅行に向かい、翌六年一月、四月、そして七月にも鳴門を訪れて十分に構想を練っている。まず、この年の第十一回文展に本作とほぼ近い位置から描いた《阿波の鳴門》を出品し、それから本作品の制作にとりかかった。文展出品作よりも渦潮の描写を強調し、画面の三分の二の大きさをつかって刻々と変化する渦潮の様子を描き、その上部には渦潮越しに見える淡路島と穏やかに広がる青空を収めて完成させている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写
三の丸尚蔵館展覧会図録No.86

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社アイワード
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan